

# すこやか生活習慣

## 女性特有のがん

女性のがんで特徴的なものは、子宮がんと乳がんです。

子宮がんには、子宮頸がん<sup>けいがん</sup>と子宮体がん<sup>けいぶ</sup>があります。子宮頸がんは子宮の入口(頸部)にできるがんです。ウイルス感染が主な原因といわれ、30~40歳代に多くみられますが、最近は20歳代での発症が急増しています。初期には自覚症状がないことが多いため検診が有効です。



子宮体がんは子宮の奥(体部)にできるがんで、女性ホルモンと関係があるといわれています。40歳代後半から増加し、50~60歳代でピークとなります。不正出血などの症状がでることが多いため、症状がある時は病院を受診することが必要です。

乳がんは、40~50歳代の女性がかかりやすく、死亡率も高いのが特徴です。乳がんは自分で調べることができるため、医師による検診とあわせて、月に1度は自己検診を行いましょう。

現在、日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで命を落としています。自分の身を守るためには、がんの早期発見・早期治療が大切です。ほかのがん検診と併せて、子宮がん・乳がん検診を受けましょう。市では、7月からがん検診が始まります。詳細は今後の広報がわぐちでお知らせします。

(乳がんのセット検診の申し込みは5月から始まります。27ページの健康ひろばをご参照ください。)

# 子育て支援

### みんなであそぼう

年齢に応じたあそびを親子で楽しみましょう。子育てに関する親子講習もあります。  
持ち物…上はき・手ふき・着替え・ビニール袋\*飲み物(お茶またはさ湯)を各自でご用意ください。

場 所	月	1歳児(15組)	2~3歳児(15組)	親子講習 1~3歳児(20組)	時間
南青木 保育所	4月	21日(水)バランスホール 22日(木)こいのぼりをつくろう	14日(水)バランスホール 15日(木)こいのぼりをつくろう		9:30 ~ 11:00
	5月	26日(水)パネルシアター 27日(木)お外であそぼう	6日(木)お外であそぼう 12日(木)パネルシアター	19日(水) エアロビクス	
戸塚西 保育所	4月	21日(水)パネルシアター 22日(木)こいのぼりをつくろう	14日(水)パネルシアター 15日(木)こいのぼりをつくろう		9:30 ~ 11:00
	5月	19日(水)バランスホール 27日(木)お外であそぼう	6日(木)お外であそぼう 12日(木)バランスホール	26日(水) エアロビクス	

●参加申し込みは1カ月1回となります。

申し込み・問い合わせ…子育て支援センター  
南青木保育所 ☎251-7249 / 受付時間 月~金曜日13:00~16:00  
戸塚西保育所 ☎298-4952 / 受付開始 4月5日(月)から

### 0歳児サークル「びっころ」 (第1期5月・6月)

初めての子育てをする保護者と子どもの交流・あそびの場です。  
(離乳食・子育ての話・ふれあいあそびなど)市内在住で第1子のかたが対象です。

日程…5月11日・18日・25日・6月1日・15日(毎火曜日)計5回  
時間…10:00~11:30

対象…平成21年6月1日~10月31日生まれ  
※第2期は10月・11月。(詳細は広報がわぐち9月号に掲載)  
※往復はきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選の上、返信します。  
※送付先 南青木保育所 〒332-0031 青木1-4-4  
戸塚西保育所 〒333-0815 北原台3-18-10  
※受付締切…4月16日(金)必着

### 園庭開放

5月13日(木)・20日(木)です。(4月はありません)  
申し込みなしの自由参加  
時間…9:30~11:00(受け付けは9:30~10:00です)

### 育児相談

日時…毎週月~金曜日 13:00~16:00  
場所…南青木保育所 ☎251-7261 戸塚西保育所 ☎295-0930

※次の場所でも「子育て親子の交流の場の提供」「子育てに関する相談」「子育て情報の提供」を毎日実施しています。また講座などのイベントもあります。  
詳細は各保育園にお問い合わせください。

- 川口駅前保育園(川口1-1-1キューポラ8F) ☎222-6011
- 川口こども園「のびのび」(安行領根岸1291) ☎286-0069
- キッズプラザアスク東川口保育園(戸塚4-21-1) ☎298-0083
- フォーマザー保育園(東川口3-2-29) ☎291-2713
- 汽車ぽっぽ保育園「ぽけっと」(東川口6-8-19) ☎229-6017

記入例	
(返信はがき)	サークル「びっころ」希望 *子どもの氏名 (ふりがな)
自宅の住所 氏名	*生年月日 *月齢(〇カ月) *保護者氏名 *住所・電話番号 *親子自己PR

# 健康ガイド

## ワンポイントアドバイス

### 「小児の鼠径ヘルニア(脱腸)」

川口市立医療センター 外科

副部長 黒部 仁



当院では、1995年から日本小児外科学会認定の関連施設として、小児外科の診療を行っています。

小児外科で一番多い病気は鼠径ヘルニア(脱腸)です。この病気は、お腹の中にある臓器(腸管や大綱、女児であれば卵巣・卵管)が脱出し、鼠径部が腫れてくる病気です

鼠径ヘルニアの問題点は、脱出した臓器が戻らなくなり(嵌頓、非還納)、緊急手術が必要となる場合があります。いつ起こるか予測できません。新生児・乳児では自然に治ることもまれにあるといわれていますが、嵌頓もその時期が多く、自然に治ることを過度に期待して、手術時期を遅らすことは良くありません。多くは片側ですが両側のこともあり、片側の鼠径ヘルニアの手術後に、反対側に鼠径ヘルニアが出てくる確率は、10%程度といわれています。

手術はヘルニアの「出口」を縛って閉鎖し、お腹の中の臓器が出てこないようにします。従来法では、鼠径部の1.5cm程の手術創で手術をします。しかし近年、小児においても腹腔鏡を併用して、鼠径ヘルニアの手術を行う方法が全国的に広がりつつあります。

この方法は、へそを利用して細いカメラをお腹の中に挿入し、お腹の中からヘルニアの「出口」を観察しながら、糸のついた針を「出口」の周囲に回して閉鎖します。左右観察できるので、両方の「出口」を同時に閉鎖することができます。従来法の創も、へその創も目立たなくなりますが、腹腔鏡による手術では、気腹と鉗子による腹腔内操作が必要です。学会においても症例の集積により、手技の安全性、合併症、術後成績などについて評価が得られています。鼠径ヘルニア手術は簡単な手術のように考えられがちですが、専門的には難しい側面が多く、小児外科専門施設での治療が不可欠です。